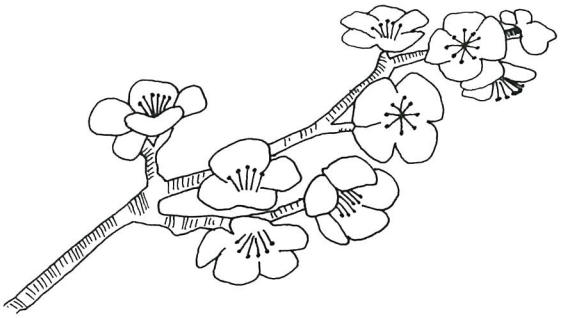
成人として思うこと

吉田　光幸

この世に生れて、二十年という歳月が過ぎた。誕生日を迎えたとき、成人するという意識よりも、年令の積み重ねで、二十の層ができたと思った。勿論、年令相応の成長を遂げているかは、疑問なのだが。

とにかく二十年という期間を生きてきた。自分の生きてきた軌跡を、未来を展望する前にふりかえってみたい。

そこには、自分一人で生きてきた記憶はなく、両親、近隣の人々、あるいは、種々の形でふれ合った人々に、迷惑をかけながら、それらの人々の寛大な心によって、援助、指導をしていただいた。これからも、沢山の人々のお世話にならなければ、生きてはいけないであろう。一人で生きていくことができないことを感じたとき、心から周囲の人に感謝しなければならないと思う。



六月に誕生日を迎え、二十年の歳月の重さを感じ、自分の生きてきた証しと同時に、成人になった実感はなかったにせよ、心に思った事は、これからは、自分の力で、一人で生きていけるように、努力しなければならないということだ。

法律上おとなの仲間入りをし、社会の人にひとりの大人として認めてもらえる、種々の権利、義務といった社会的責任も負うことになる。今までのような、甘い気持ちはすて、二十歳という人生の節で、心の持ち方を改めなければならない。

成人の日を迎えて、自分がどれほど社会に貢献できるのか、全く未知であるが、少なくとも、他人に迷惑をかけないように、分別のある言行をしたいと思う。だれでも年令が二十歳になれば、成人として認められるからではなく、成人としての自覚を持ち、成人たるにふさわしい人格形成に努力したいと思う。

二十歳の決意

加瀬真規子

いよいよ私も成人の仲間入りです。とは言ってみたものの、なんとなくはたちになってしまったというのが、正直な気持ちです。

そこで、成人式を迎えるにあたって『成人としての自分』を、改めて考えてみたいと思います。

二十歳になると、法律的、社会的に種々の権利が与えられ、一個の独立した人間としてみなされるわけです。これまで、主観的な物の見方しかできず、すぐまわりの人に依存してしまう私でしたが、与えられた権利に対する責任を果たせる様、心掛けたいと思います。

また、社会が多様化している現在の日本では、目的もなく勉強したり、仕事をしたり、というように、無気力な若者が増え、とかく自己を見失いがちです。そうならないためにも強固な意志を持ち続けたいと思います。

〝意志ある所に道あり〟と、ことわざにいわれる様に、強い意志があれば、必ず道は開けると思うのです。現在学生の私ですが、学生のうちに、将来自分のやりたいことを見つけ就職という名の道を開きたいと思います。

これからは今まで生きてきた二十年よりも、ずうっと長い人生が待ち受けています。喜びも多いでしょうが、それだけに、苦しみも多く、これまでとは全く異った困難にぶつかることでしょう。そうした時に、この二十年間で両親や、さまざまな方がたから教えていただいた事を活かし、強い責任感と意志を持ち、冷静に自分をみつめながら、生きること、それ自体が回答になるような、そんな生き方をしたいと思っています。

最後になりましたが、いつも暖かく見守って下さった両親やまわりの皆様に、心から感謝しております。これからも、人と人とのつながりを大切にし、皆様に恥ずかしくないよう、人間らしく生きていきたいと思っています。

20歳の青年の顔

（順不同）